



道北エリア
初山別村

一人前の漁師になることで恩返しをしたい

東京のIT企業に通勤する満員電車から自分を開放したとき、彼の頭上に広がっていたのは満天の星空。地域おこし協力隊として赴任した初山別村に、任期後も定住し、新たに漁師を目指す理由とは？

プロフィール

名前 齋藤 浩之 年齢 32

前職 地域おこし協力隊

以前の居住地 千葉県



新規就業を考えたきっかけから実行までのプロセス

IT系企業の通勤中、電車広告で見かけた初山別村の「地域おこし協力隊」に応募▶初山別村役場で3年間勤務▶頼まれればどんなことでも手伝う日々の中で熟練したタコ漁師の楽しそうな仕事ぶりに惹かれる▶役場に相談したところ新しい漁業研修制度が作られ、漁師になるため研修中

現在の仕事内容

初山別村の特産であるタコ漁業は、タコ箱を沈めて入ってきたタコを獲るのですが、道具は自分たちで直し、網を編むのも皆で協力して行っています。



。タコの他にもフグ、ホッケ、ナマコ、サケなど色々な漁業の知識や技術などを漁師の先輩たちに教わりながら、少しずつ覚えているところです。

仕事のやりがいや魅力

自分の裁量で仕事ができるところが漁師の魅力だと思っていましたが、決してそうではなく、親方や先輩漁師の皆さん、役場の方に道を拓いていただいて、今この仕事ができていることに感謝しています。



現在の暮らしや地域との交流

初山別村に来た当初は同じ協力隊のメンバーと共同住宅に同居していましたが、役場が空き家を探してくれて、ひとり暮らしを始めました。思えば毎日満員電車で揺られて終電で東京から千葉に帰る生活から一変。ここでは地域の皆さんが積極的に関わって来てくれたので、すぐに馴染むことができました。近所の方々にいつも食材や料理などのお裾分けをいただいているので、早く恩返しができるようになりたいです。また、村にはインドネシアなど海外からの実習生もいて、彼らは本当に漁師としても優秀で、日本語で冗談まで言えるほど村に馴染んでおり、一緒に温泉に行ったり、鍋を囲んだりして楽しんでいます。

今後の目標

漁師としての研修が始まって1年が経ちます。今は先輩と一緒に操業しており、あと2年以内に一人で操業できるようになることが直近の目標です。小さいですが船を譲っていただいたので、少しずつ修理をしていて、まずはこの船で沖に出たいです。いつかは親方や先輩たちのような大きな船を持ちたいので、教えてもらったことを現場で生かせるように学んでいきたいです。



これから新規就業を目指す方へ

初山別村は星空が美しいことが有名で人も自然も素敵なところですよ。漁師は厳しい仕事と思うかもしれませんが、どの仕事にも大変なことはありますので、僕の後輩になる人が来てくれたら嬉しいです。